

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和 4年 2月 16日

公表: 令和 4年2月25日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス
すまいるみっけ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		少人数の活動ができる(4室)	同じ活動名でも発達によって段階が異なるため小グループで提供します。また、大きい児童の見本が必要な時は一緒に行う場合もあります。また、コミュニティーセンターを利用しルールある遊びや運動を実施しています。
	2	職員の配置数は適切である	100%		有資格者・経験を積んでいる	個別・集団など同時間に提供できるように工夫しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%		階段の手すり・転倒防止柵 死角のないスペース	各部屋の段差は最小限に改修しました。また、今後の利用児の様子によっては改修することもあります。 施設内において抗菌・抗ウイルス・防臭のコーティング済。随時 消毒に努めています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		コロナ終息後外部講師により専門的な体験・経験する機会を提供(習字・英語など)	ニーズの把握と職員間の連絡(報連相)の充実に重点を置きます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			コロナの影響により改善されたとは言いきれないが今後も努力します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			全利用保護者様に配布の上、ホームページに公表済
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		100%		今後実施する予定です。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		週2~3回に1回施設内研修の時間を設定されている	今後も継続します。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		保護者と面談及び聞き取りしながらニーズの把握に努めている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			各ニーズを聞き取りながら支援に反映されるように努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			季節の行事に合わせた活動やSST等地域で生活するためのスキルの指導に努めています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			余暇活動につながるようにいろいろ経験体験できるように工夫をしています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		支援計画書に記載	自立時を考慮しニーズを把握しながら支援内容に配慮しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		毎朝打ち合わせの時間を設けている	継続
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		時間内に振り返り及び翌日の確認時間を設定している	継続
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		記録用を支援内容に沿って工夫している	日々支援内容に沿っているか職員の振り返りもできるように努めています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		保護者との聞き取り面談相談内容により随時支援内容の見直しを行っている	今後も継続します。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%		月案を作成	お便りに保護者に配布しています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		児童発達支援管理責任者と他の職員も同行している	管理者のみでなく通常関わっている人へのスキルも上げるために参加する経験が必要と考えています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		保護者より事前利用月予定表を配布	利用日、送迎時間等保護者が記載することで共通認識を図りミスを最小限に回避するように務めています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当利用児がいない	今後、利用希望があり受け入れ可能の場合は連携は必須と考えています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%		必要に応じて行っている	各機関へ送迎時、担当の先生からその日の情報を得ています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		必要に応じて受けています	連携会議時参考にすることが多いです。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		60%	外出により関わる機会を設けている	コロナの影響により控えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%		参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		記録用を支援内容に沿って工夫している	日々支援内容に沿っているか職員の振り返りもできるように努めています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%	子育ての不安や悩みは随時個別で対応している。	保護者の不安は早急に軽減及び解決できるように配慮しています。コロナの影響により面談予定計画を完了できないところもありました。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			今後も詳しくわかりやすいように説明に努めます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		子育ての不安や悩みは随時個別で対応している。	保護者の不安は早急に軽減及び解決できるように配慮しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	30%	70%	必要に応じて実施した。	父母会は保護者に負担がかかるため結成はしていないが小集団で談話の機会を提供していません。コロナの影響で思うようにいかなかった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		迅速に対応していると判断している	他の利用の方々に共通する内容においては月1回のお便りに記載することを承諾していただき掲載しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		月1回及び行事等のお便りを発行している	
	35	個人情報に十分注意している	100%		職員への周知徹底に努めている。	お便りなどにおいて(写真)表情を出さないようにしています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		連絡帳により共有している	お互いにつ利用日は連絡帳に様子を記載し保護者に確認していただいています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%		コロナにより実施できませんでしたが近隣の方々への挨拶及び講師を依頼しているホームページにより情報発信する。	地域には老人の皆さまですので、趣味を生かして子供たちに係る機会を設ける予定です。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	色々な災害を想定して実施している	実施時連絡帳及び月のお便りに掲載しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	定期的に施設内研修実施	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		危険行為及び問題行動をする児の支援内容は密に保護者と密に話し合い関わり方の統一を図ることに重点を置いています。(ペアレント)
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	アレルギー調査票	ナナS在籍栄養士のアドバイスを受け配慮しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	ヒヤリハットは事故防止につながる重要なものである意識を持っている	ヒヤリハット記載しても評価しないことを伝えています。